

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 3 月 9 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3671400210
法人名	有限会社 ビランチャ
事業所名	グループホームまぜの里
所在地	徳島県海部郡海陽町大里字吉尾110番地4 (電話) 0884-74-3470

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成 21 年 2 月 23 日

【情報提供票より】(平成 21 年 2 月 6 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤:12人、非常勤:10人、常勤換算:さくら9.8人 あんず10人	

## (2) 建物概要

建物構造	鉄骨・木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階 部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000・22,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有の場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	- 円	昼食 - 円
	夕食	- 円	おやつ - 円
	または1日当たり		1,100 円

## (4) 利用者の概要 (平成 21 年 2 月 6 日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	町立海南病院、寿満内科クリニック、野田医院、ヒロタ歯科、山石歯科
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

町工場の跡地に開設された事業所は既存の建物や広い敷地を有効に活用し、明るくほのぼのとした暮らしの場を提供している。樹木や芝生、季節の草花が植えられた庭園にはベンチが置かれ、利用者にとって日光浴を楽しみながら友人や近所の人たちと語り合える憩いの場となっている。また、事業所は認知症緩和ケアを推進し、一般住民や地域関係者へも広く呼びかけ、研修会を主催したり、日々実践に取り組むなど効果も上げられている。管理者、職員は利用者を人生の先輩として敬い、節度ある優しい対応に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の課題である「運営推進会議を活かした取り組み」、「重度化や終末期に向けた方針の共有」は改善するまでに至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	代表者、管理者は評価の意義とねらいについて職員と話し合い、自己評価は全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は利用者や家族、町担当職員、地域包括支援センター職員、地区民生委員、知見者等の参加を得て本年度は2回開催されている。協議内容は前回外部評価の結果や事業所の取り組み状況が話し合われ、各委員からは運営に関する積極的な意見が出され、記録も残されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者の暮らしぶりを写真に収め、担当職員のコメントをそえた「まぜの里通信」が毎月家族のもとに届けられ、急な体調変化時には対応の結果を電話するなど実状に即した報告が行われている。また、家族が気軽に意見、要望等が伝えられるよう意見箱を設置したり、職員が積極的に聞く努力もされている。出された要望等は職員会議で話し合い、日々のサービスに反映させるなどよりよい運営に向け取り組まれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の人たちとは日常的に近所づきあいが行われ、ベランダ越しにあいさつを交わしたり、季節の花や野菜の差し入れもある。また、地元高校生による太鼓の演奏や小学生とのふれあい、地域の秋祭りや夏祭りの花火大会、町の文化行事に参加するなど積極的な地域交流が図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は利用者が住み慣れた地域で安心した暮らしの継続を支援するため、「ゆっくりと一緒になのしく笑顔の暮らし」を柱とした独自の理念をつくりあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝えたり、ミーティング、職員会で具体的に話し合うなど共有が図られ、日々の実践に活かされるよう意識づけがなされている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人たちとは日常的な近所づきあいが行われ、ベランダ越しに挨拶を交わしたり、季節の花や野菜の差し入れもある。また、地元高校生による太鼓の演奏や小学生とのふれあい、地域の秋祭りや夏祭りの花火大会、町の文化行事に参加するなど積極的な地域交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	代表者、管理者は外部評価の意義を理解され、自己評価は全職員で行っている。前回評価の課題については委員会を立ち上げるなど、前向きに取り組んでいるが、改善するまでには至っていない。	○	今回評価の課題点を全職員で話し合い、一つひとつ改善されることを期待したい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者や家族、町担当職員、地域包括支援センター職員、地区民生委員、知見者等の参加を得て本年度は2回開催されている。協議内容は、前回外部評価の結果や事業所の取り組み等が話し合われ、各委員からも運営に関する積極的な意見が出され記録も残されている。しかし、職員間で会議内容の共有を図るまでには至っていない。	○	運営推進会議は、2か月に1回開催されたい。また、会議で話し合った意見等を事業運営に反映させるためにも、全職員で内容を共有し、議事録への確認印(サイン)の徹底を図られたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から交流が図られ、電話や直接話し合うなど事業所の実状が伝えられ、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりを写真に収め、担当職員のコメントをそえた「まぜの里通信」が毎月家族のもとに届けられ、急変時には対応の結果を電話するなど、実情に応じ随時の報告もされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が気軽に意見、要望等を伝えられるよう意見箱を設置したり、職員が積極的に聴くよう努めている。出された要望等は担当職員で検討し、さらに職員会議で話し合うなど、よりよいサービスを目指し取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はなく、利用者は馴染みの職員の継続的な支援が受けられ、穏やかな笑顔でゆったりと過ごされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者、管理者は職員の質の確保・向上に熱意をもち、事業所内外の研修会への参加、資格取得に積極的である。また、事業所は、認知症緩和ケアを推進し、一般住民を含む地域の関係者へも広く呼びかけ、研修会も開いている。各種研修内容は職員間で共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、他法人の事業者との交流や連携の必要性を認識し、近くのグループホームと運営推進会議の開催時や新任研修、視察等で気軽に行き来し、相互の質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始にあたり、職員は利用者、家族の困りごとや希望等を見極め、一緒に事業所を見てもらったり、体験宿泊の利用を通して徐々に馴染めるよう、本人本位の視点にたって柔軟に支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の生活歴を把握し、得意なことをさりげなく支援している。昔の苦労話や活躍の場面などを利用者から教えてもらうこともある。職員は本人の思いを共感し、支えあう関係が築かれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活習慣から、一人ひとりの意向や暮らし方の希望を見出している。利用者が言葉にしづらい思い等は日々の行動や表情からくみ取り、本人の視点に立って検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の要望や日頃から関わりの深い担当職員のアイデア等が盛り込まれた原案をもとに、ケアカンファレンスが行われ、さらに関係者間で話し合い、利用者の生活習慣や望む暮らし方を重視した介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況や効果などを日々の関わりのなかで確認し、状態変化に応じた随時、定期的見直しも行われ、実状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は、独自の事業としてナイトケア(体験宿泊)を実施し、対応困難な認知症高齢者や家族には在宅生活での心強い支援となっている。また、看護師が職員として配置され、利用者の日々の健康管理や急変時の対応等柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や通院介助について予め家族と話し合い、受診後の情報の伝達方法を定めるなど、利用者が適切な医療を安心して受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は利用者、家族の要望に「可能な限り応えたい」との姿勢はあるが、医療処置の対応、ターミナルケアに向けた職員の介護技術、質の確保等について方針の確立までには至っていない。	○	単独事業所の条件下で、重度化した場合や終末期に向けたあり方について早急に検討され、事業所としての方針を定めるとともに関係者全ての間で共有を図られたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、さりげない声かけや優しい対応を心がけ、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した取り組みがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、その日の日課を優先するのではなく、利用者の気分や体調に配慮しながら、本人がどう過ごしたいかを把握し、一人ひとりの希望、ペースに合わせた支援を心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者のできること、したいことを見極め、調理、食事の配膳、後片付け等を一緒に行い、食事中は食べこぼしをさりげなくフォローするなど、楽しく和やかな食事を支援していた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者、家族から一人ひとりの入浴習慣や好み等を聞き、個別に入浴支援を行っている。入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応等を工夫するなど、利用者が入浴を楽しめるよう取り組んでいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の好きなこと得意なことを見出し、食事の準備や洗濯物たたみ、カラオケ等の趣味活動を支援し、一人ひとりが役割を楽しみながらいきいきと過ごせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候のよい日には散歩やドライブに積極的に出かけている。また、敷地内には庭木や芝生、ベンチなど工夫されたくつろぎの空間が設けられ、利用者は日光浴をしながら談笑したり、散策を楽しまれている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は開放されている。事業所は交通量の多い生活道路に面しているため、職員は一人ひとりの外出の傾向を把握し、利用者の動きをさりげなく見守るなど、安全かつ自由な暮らしを支援されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、消火器の取り扱いや避難訓練を実施している。また、緊急連絡網、火災通報専用電話等も整備され、災害時における消防署や地域住民の協力体制が整っていて、心強い関係が築かれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、一人ひとりの1日の栄養摂取総量や水分量を把握し、利用者の嚥下機能、嗜好にそった食事を提供している。栄養バランスについては、地元の栄養士に相談しチェックが行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前の庭園には、樹木や草花の傍らにベンチが配置されるなど、日当りのよいくつろげる居場所となっている。ホールは明るく、利用者の作品や季節の花、お雛様が飾られ、座敷の掘りごたつ、外に広がるウッドデッキは、季節ごとに楽しめる居心地のよい生活の共有空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ、本人の作品や家族の写真を飾るなど、思い思いに居心地よく過ごせるよう支援していた。		